

北陸農政局長賞受賞

～昔からの地域の絆、新しく生まれた絆2つの絆で集落を元気に～

しおだにしゅうらく

受賞者

塩谷集落

(新潟県小千谷市)

■ 地域の概要

新潟県小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置しており、日本一の大河・信濃川が市内を縦断し、河岸段丘の地形が特長の地域であり、日本農業遺産（雪の恵を利用した水稲作と養鯉システムの地）に指定されている。

塩谷集落は、小千谷市西部の山間部に位置し、平成16年新潟県中越地震により大きな被害を受けたため、復旧・復興はもとより、住民を元気づけるためにも集落を活性化し、震災後に集落外に出た人も含めて集落の「絆」を維持したいという機運が生まれ、むらづくりの取組が始まった。



位置図

■ 主なむらづくりの内容

外部人材（大学生等）を活用し、集落外に転居し通作している農家とも共同で、農道・水路の維持管理作業、フラワーロードの整備を行っているほか、農業生産活動と農地の管理を行い、耕作放棄地の発生防止にも努めている。

また、棚田等で生産した米を「絆米」（無農薬・はさかけ天日干し）と名付け販売したり、伝統野菜「かぐら南蛮」の生産を復活させている。（かぐら南蛮の一部は、「みどりのラー油」（小千谷市塩谷産100%）に加工され、県内と首都圏で販売。）

集落の全世帯が参加する「塩谷分校」を組織し、多様な主体との交流活動を行っている。震災後に集落を離れ、通いで農作業で訪れる際の拠点として「芒種庵」（古民家）を整備、東北地方の被災地域の住民とも交流し、復興のシンボルとするなど、交流人口の拡大につなげている。



写真1 学生との交流



写真2 かぐら南蛮の生産



写真3 芒種庵で
東北の被災者と交流